

公害被害認定状況

公害患者939人・鷹岡地区の109人がトップ

富士市の2月末現在の「公害被害認定状況」がこのほどまとまりました。市環境部衛生課の調べでは、こんど認定審査会で新たに公害患者に認定された人は7人。反対に失効者（或る程度治った人）は4人で、差引き前月より3人増え、実認定者数は国と市の分を含め939人を数え毎月少しずつ増加しています。

男女別でみると男516人、女

423人の計939人で疾病別では、気管支ぜんそくが圧倒的に多く793人（女350人）、次いで慢性気管支炎74人（女46人）、肺気腫26人、その他46人となっています。

また、これまでの失効者は426人でこのうち治った人155人、死んだ人59人、そのほか市外へ転

出した人9人、法律改正によって国へ移った人203人となっています。

地区別では、鷹岡地区がトップで109人、次いで今泉地区96人、吉原地区89人、田子浦地区82人の順となっています。



クリーニング店の実態調査

飾りボタン アクセサリーは取りはずして

富士市消費生活モニターは2月21日市役所で市内のクリーニング店の代表者8名と話し合いを行いました

これは去る2月13日から2月18日まで30名のモニターが市内のクリーニング店の実態調査を行ない、この結果をもとに業者と話し合いを行ったもの。ことし市の相談窓口によせられたクリーニング相談は5件の苦情があり、また県内では64件でクリーニング相談105件のうち61件を含めています。

苦情の内容は変色、紛失が一番多く、また新たな問題として合成樹脂などによるボタンなどの普及で型がくずれたり、溶けてしまったなどのケースがでています。

今回の調査はワイシャツ、ズボン

スカート、セーターの4品目について調べましたが、モニター30名

中、問題があった人は9人で仕上げなど悪かった9件、よごれ落ちしない3件、ちぢみ2件など14件のクレームがだされました。

価格についてみると、前回（52年7月中旬）にくらべ平均価格はスカート24.3円を筆頭にセーター17.1円、ワイシャツ5.3円、ズボン4.6円とそれぞれ値上りしていました。

特に今回の調査で目立ったことは高値、安値のひらきが大きかったことで、スカートの600円をはじめズボン350円、セーター250円、ワイシャツ100円と差がありました。

また、業者との話し合いで主なも

のは消費者から業者に対し

取次店システムをもつクリーニング業者は、サービス面や勉強不足が目立ち、もっと従業員を教育してほしい。仕上げた品物が入っているビニール袋を、一部消費者は保存袋と思いこんでしまい、あとでカビやシミをつくった例もあるので保存袋でないことを明記してほしい。

また、業者から消費者には

飾りボタンやアクセサリーなどは破損や紛失の原因になるのでクリーニングに出すときは取りはずしてほしい。もう一つは、仕上げた品物はその場で確認してほしいなどの要望が出ました。

特定行政庁

4月1日から開設

市はこの4月1日から特定行政庁を開設することになりました。すでに53年度予算にも同開設費として

509万8,000円が計上されています。

いままでは建築確認申請などの建築関係業務は市が受付て県の富士土木事務所へ提出していましたがこの4月1日からは県が扱っていた建築関係業務一切を市が担当することになり、市民にとってはいろいろと手数料もはぶけ便利になります。